

第28期第12回常任理事会議事録

日時：1995年11月16日 13時30分～17時30分

場所：気象庁内日本気象学会事務室

出席者：松野、関口、磯部、大西、小倉、斉藤、里村、
竹内、田中、永田、中村、新田 以上12名

議事：

1. 第28期第4回理事会議事録の確認

原案どおり承認。

2. 各委員会からの報告及び審議

庶務…後援名義等使用申請3件を常任理事会として承認。

第28回乱流シンポジウム・第7回計算流体シンポジウム・第1回環境流体シンポジウム(日本流体学会主催, 96年7月, 工学院大学新宿校舎)。

気候講演会(気象庁・日本気象協会主催, 96年1月, 東京・科学技術館)。

第3回アジア学術会議(日本学術会議主催, 96年3月, 三田教養会議所)。

・後援名義等使用申請1件を学会事務局で承認したことを報告。

第11回北方圏国際シンポジウム(紋別市主催, 96年2月, 紋別市市民会館)。

・TRMM アルゴリズム開発に関する委託契約締結(RESTEC)。

・電子図書館サービス試用運用参加申込書を提出(学術情報センター)。

・日本原子力研究所からの「論文データベース」のアンケートについては、庶務担当理事が回答することを承認。

・地学関連学会連絡協議会第2回会合(11月13日)に木村、名越、大西の3名が出席。協議会の結成が承認され、次回までに原案よりもゆるやかな会則案を作成し、次回の冒頭に審議することが了承されたことを報告。

会計…95年10月の収支状況を報告。全体的には順調に推移。学会事務局のパソコン1台のハードディスクが故障し、修理には相当な費用が必要のため、パワーマック7200で買い換えた。

・95年度秋季大会(大阪)の収支状況を報告。

天気…11月号の内容及び12、1月号の予定を報告。

気象集誌…12月号を編集。一般論文16編、HEIFE特集第2回関係9編。

講演企画…「天気」の「会員の広場」に大会での講演発表上の注意事項、会場設営に対する注文などに関する投稿があった。学会としてのコメントを出す。

教育と普及…秋季大会で奨励金を授与した会員に「天気」への投稿をお願いしている。

・「教養の気象学」改訂版については予定した著者のほとんどから執筆を受諾していただいた。小委員会と執筆者の合同会合を12月にもつ予定。

・来年の夏季大学のテーマは「長期予報とグローバル気象」と決まった。

パソコン通信…9月のアクセス数319回、10月は277回。

・現在は NEC98 で学会 BBS を運営しているが、将来的にはマックに移行して高度化を図りたい。このためには10万円程度のソフト購入が必要となる。

・学術情報センター WWW を利用して気象学会の情報をインターネットで提供する件については、里村理事を世話役としてホームページの作成などに詳しい会員のチームを作り、そこで検討してもらうことを常任理事会として了承。

3. 会員の新規加入等について

個人20名の入会を承認。個人24名の退会を報告。

4. 地球科学流体環境関連学会協議会について

大阪での第4回理事会の決定を受けて、標記協議会を設立する方向で動くこととする。次回常任理事会で関連学会への呼びかけ文の案を総合計画担当の木田理事に提案してもらうこととする。協議会の名称は「地球環境科学関連学会協議会」などの方が適当との意見も出た。

5. 第29期役員の選任について

気象学会の運営のあり方との関連で常任理事会としての自由討議。「学会の運営にはいろいろな分野の人の意見を反映していくことが重要。このためには、評議員会だけでなく、学会の総合計画の検討などにも多分野の人材活用を行うべき。理事会も大学と気象庁関係者だけに近い現在の構成から、裾野を広げる努力が必要。」などの意見が出された。次回常任理事会で、もう少し具体的な人選を含めて議論するこ

とする。

6. 名誉会員の選任について

10月16日に大阪で第1回名誉会員推薦委員会が開催され、10名中7名の委員が出席した。当委員会で審議された、国外の人を対象に次回総会に名誉会員候補を推薦する件につき、同委員会の関口委員長と委員会事務局の大西庶務担当理事から報告。その概略は以下のとおり。

「候補者として推薦する基準をだれもが納得できる形で決定することは容易ではなく、慎重な対応が必要との認識が大勢。合意できる推薦基準をまとめるに至らなかったため、次回総会に名誉会員候補を推薦することは行わない。次期理事会に対処方針を示さずに引き継ぐことは避けるため、1996年5月の春期大会中に第2回推薦委員会を開催し、この問題の処理について中期的な結論を取りまとめる。」

7. 気象集誌の印刷を ELSEVIER に委託することについて

10月16日に大阪で開催された標記に関する懇談会の結果について、気象集誌編集委員長の新田理事から報告。懇談会には18名の出席があり、編集委員会

側からこれまでの経過が報告され、討論が行われた。席上出された意見は概略以下のとおり。

「ELSEVIER に委託して集誌がより国際化し、ページ数が増加すること、予算の関係でページ数を制限することは矛盾する。“国際化”ということで、これまで学会主導で行ってきたやり方が制約される恐れがある。著作権は学会も持っておくべきだ。

ELSEVIER に印刷を委託している Fluid Dynamic Research (FDR) の経験では、編集権が侵害されることは決してなく、Impact Factor も向上した。」

この報告を受けて常任理事会として審議し、ページ数が増加した場合の経費等について、編集委員会と ELSEVIER の間でさらに詰めてもらうこととする。

8. 春季・秋季大会のあり方について

大阪での第4回理事会で大会の運営を見直すことが基本的に承認されたことを受け、1996年2月に予定される次回の講演企画委員会で、大会運営の変更を実際に実行する場合に検討を要する問題点等について検討し、常任理事会等に戻してもらうこととする。